



待降節第 4 主日 (マタイ 1:18-24)

我々と共におられる救い主を両手で受ける

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」イザヤ書を引用して、マリア様が身ごもっている方の未来を天使ガブリエルがヨセフに示した言葉です。「ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ(た)」(1・24)とあるようにヨセフは人間としてのためらいを横に置いて行動します。ご降誕ももうすぐそこまで来ていますから、私たちもためらうことなく行動を起こしましょう。

先週の説教に少し触れたいと思います。日本においでになったフランシスコ教皇が、刷新のために選ばれた方、今の時代に必要な方として選ばれたということはお話ししました。教皇様は特に社会の手を必要としている人、さらに社会から必要な支援を受けられない人にまで近く寄り添ってくださる方として知られています。

一つ例を挙げると、教皇様は「焼き場に立つ少年」を示してくださいました。原子爆弾の犠牲となった兄弟をおぶって、火葬してもらう順番を待つ少年です。日本で起こった出来事ですから日本人の私たちのほうが知っていて良さそうな話です。しかしあの写真の少年を知ったのは、教皇様を通してでした。教皇様は、最も助けを必要としている人に寄り添う姿を、私たちに示してくださったのです。

それだけでも日本全体が驚きましたが、教皇様はさらに、私たちのそば近くに来て、寄り添う姿勢を見せてくれたのです。82歳で、足もとが少し不安そうに見えました。けれども教皇様はご自身の心配を横に置いて、日本のカトリック信徒に、日本の教会に、日本の社会に、最も助けを必要としている人に目を向けて寄り添ってあげなさいと模範を示して来たのです。

ところで、皆さんも少しは聞いたことがあるかも知れませんが、教皇様は80歳以下の枢機卿様による選挙によって選ばれます。2013年当時、世界の枢機卿様は151名いまして、そのうち80歳以下の、選挙権を持つ枢機卿様が115人いました。この115人が選挙して、フランシスコ教皇を選んだのでした。実は教皇ベネディクト16世が選ばれた時、二番目に票を集めたのがベルゴリオ枢機卿、のちのフランシスコ教皇だったそうです。

枢機卿団は、高齢で選ばれたベネディクト16世の後継者は、もっと若い、60代後半から70代前半の人が選ばれるべきだと考えていたそうです。もう一つ、推薦の票が次点だった人が次の選挙で教皇様に選ばれたことは過去に一度も無かったそうです。そうなると、ベルゴリオ枢機卿は候補から漏れていたはずですが、神様は次の教皇様として、「最も助けを必要とする人のそば近くにいる指導者」を必要としていて、選挙の行方を導いていたのだと思いました。

ですから、今、カトリック教会に必要な指導者は、「最も助けを必

要とする人のそば近くにいてくれる指導者」ということです。この必要な指導者の姿を完全な姿で示してくださるのは、言うまでもなくイエス・キリストです。今年のクリスマス説教のテーマも、「最も近くに来てくださった救い主」という形で示そうと思っています。来日したフランシスコ教皇様は、このイエス・キリストを見える形で、私たちに示してくださったわけです。私はその意味で、教皇フランシスコは今年最大の、神様からのプレゼントだったと考えています。

「『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」救い主の誕生は、「神は我々と共におられる」ということの証です。私たちが受け取るのは、人となって幼子の姿で現れた神様というだけでなく、「我々と共におられる」神様を受け取るのです。

幼子の姿に、すでに示されているものがあります。幼子は、腕に抱きかかえなければ、その場から動くこともできません。私たちと共にいるために、最も近くいるために示された姿が幼子という姿だったのです。すると、私たちが幼子イエスを迎えるために必要な準備があります。一つは、私たちは両手を空にして、幼子の誕生を待つ必要があります。もう一つは、「神は我々と共におられる」というメッセージを受け入れ、繰り返し思い起こしながら生きる覚悟です。

ヨセフはマリアと一緒にいるために、思い悩みを捨てる勇気が必要でした。「夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。」(1・19) 人間の思いを両手一杯抱えていましたが、身ごもっているマリアを受け入れるために、両手を空にする勇気が必要でした。人間にはできないことですが、夢に現れた天使の言葉をよく考え、神の助けに信頼し、まもなくお生まれになるイエスを、両手で受け取ることにしたのです。

マリアと、幼子イエスを受け入れたヨセフには、これからいくつもの困難が待ち受けています。けれどもヨセフが両手で受け取ったイエスは、「神は我々と共におられる」このメッセージの見えるしるしでした。たとえヘロデに命を狙われても、たとえエジプトでの生活が見通せなくても、「神は我々と共におられる」このしるしであるイエスを抱いて、毎日を過ごします。ヨセフの中にすでに、私たちに必要な準備のお手本があります。

さらに私たちは、教皇フランシスコを通して「神は我々と共におられる」この証しに生きるお手本を頂きました。まもなく迎えるご降誕は、「インマヌエル」「神は我々と共におられる」を受け取る日であり、「神は我々と共におられる」と証しする日の始まりでもあります。最も助けを必要とする人のそば近くにいてくれる指導者を私たちは見ました。私たちが証の生活をしながら、私たちの支えを必要としている人に寛大に心を開く。両手を空にして、残る日々の準備を急ぎたいと思います。